

シンガポールスポーツハブ解禁！

シンガポール事務所

スポーツ振興策の目玉でありながら、観光資源や人々の生活、憩いの場としての役割を期待されるシンガポールスポーツハブ（Singapore Sports Hub）が、今年6月にオープンしました。

1 アクセスの良さは抜群

ビジネス街の中心地から車で7分、MRT やバスを使っても20分以内で最寄りのスタジアム駅に到着します。

出口の前方左手には図書館、ビジターセンター、右手にはショッピングモールと競技場（ナショナルスタジアム）の入り口があります。

シンガポールでは公共交通機関の充実を計画的に推進しており、利用者の利便性のみならず渋滞緩和や環境保全にも大きな効果が見込まれています。



Stadium 駅のA出口から見たスポーツハブ

2 スポーツ振興の目的は健康づくり？



図書館の2階は静かな読書スペース

この施設においてスポーツを競技としてだけでなく、健康を保つために重要と捉えていることが分かるのが図書館（スポーツハブライブラリー）です。

約 8000 冊の蔵書は主にスポーツと健康に関するもので、一般の図書館と同様貸し出しも行っていきます。（※但しシンガポール国民と永住者のみ）

1 階には小さなサッカーゴールや巨大なチェス盤

が備えられており、中に入った瞬間は何かのギャラリーかと勘違いしてしまうほど図書館のイメージとはかけ離れていますが、2階に上がれば書棚と読書スペースが備えられており静かに読書ができます。

少子高齢化が急速に進むシンガポールでは、健康でありつづけるためのひとつの手段としてスポーツに親しむことを推奨しています。

この図書館はまさにその啓発のための施設で、スポーツと健康に特化した情報発信の場となっています。

3 スポーツハブでお買い物

図書館の向かい側にはショッピングモール「KALLANG WAVE」があります。

スポーツ用品店はもちろん、ファッションブティック、スーパーマーケット、レストランやカフェが入り、住宅街にある駅周辺と少しも変わることなく賑わっています。違っているところがあるとすれば、ショッピングモール内にそびえ立つボルダリング用の壁でしょうか。食事や買い物が目的であっても、スポーツに関心を持つ様々なきっかけが溢れていますので、訪れる人たちは折に触れスポーツに関する情報を見聞きすることになります。

またごく普通の生活の場としての機能を待たせることで、スポーツイベントが開催されていなくても集客が可能です。



KALLANG WAVE 正面入り口



入り口を入ると目の前にボルダリングの壁

4 注目のナショナルスタジアム



ドームの外観

シンガポールスポーツハブ最大の目玉は、全天候型競技場（スタジアム）です。最大で5万5千人の観客席を備えるこのスタジアムは、可動式のスタンドで席数を調整することができます。また、太陽光エネルギーを活用し、巨大な空間でありながら足元の冷風装置で

体感温度を低く保つなど、最新の技術を駆使したエコフレンドリーな施設となっています。

一方、運営にも工夫が見られます。数十万円もする会員制システムを導入し、高い値段でも手に入れたいと思わせるだけの魅力溢れるサービスを提供しま



可動式スタンドの下には座席が



VIP Room からの眺め

す。貸切のVIP Roomからはスタジアム全体を見渡すことができ、バーカウンターも備えられていて仲間同士の時間を楽しめます。やや手頃な価格帯の会員レベルでも、ゲーム観戦のチケットを優先して購入（一般発売より一か月早く販売開始）できるというメリットがあり、既に会員枠はすべてのレベルで完売しているとのこと。

5 日本の自転車文化が牽引役に

スポーツ振興の拠点として造られたスポーツハブは、より多くの人々に足を運ばせてスポーツへの関心を高める役割を期待されています。このため、アクセス、施設、サービス等あらゆる面で人が集まりやすいよう工夫されています。

ここで図書館と並んでスポーツ振興の牽引役となっているのが、日本の自転車部品製造会社シマノ



サイクリングマップが映し出される
シンガポールでは
将来の人口増加と都市交通機能のバランスをとるため日常生活での自転車活用を推進しており、現在その啓発に力を入れています。スポーツハブには日本企業である同社がスポンサーとなり運営する「サイクリングワールド」という自転車文化や技術の歴史、サイクリング情報を知ることができるギャラリーがあり、そこで自転車に関する正しい知識を伝えるとともに、シンガポールで自転車を上手に活用するためのアドバイスを行っています。ギャラリー内に店舗は設けず啓発事業の担い手に徹底しています。展示ではサイクリング情報のひとつとして、「パークコネクター」と呼ばれるシンガポールが都市及び緑化政策の柱として整備を進めているシンガポールを一周できる通行路についても説明し

ています。日本の自転車文化は日常生活の中で効率的な移動手段として発達してきました。その文化を背景に日本の企業がシンガポールのスポーツ振興策の一翼を担っているのです。

6 多くの期待を込めて

シンガポール・スポーツ・ハブとは、世界有数の規模を誇るスタジアムを中心とする複合施設であり、その期待される役割はスポーツ振興に留まるものではありません。

食事や買い物という日常の生活空間に「スポーツ」の要素を溶け込ませ、スポーツと生活に一体感を持たせることで、スポーツを通じてより健康的な生活を送れるようにするというシンガポールのビジョンを反映しています。

また 2016 年から独立記念日の式典会場として使用されることで、シンガポールスポーツのシンボルとして国民への意識づけに繋がるとともに、シンガポールスポーツの発展を



自転車の種類についての説明



多くの体に合う自転車は？

世界に印象付けるインバウンド戦略のひとつとも言えるでしょう。

様々な期待を背負い、シンガポールの新たなランドマークとして生まれ変わったシンガポール・スポーツ・ハブに今後最も熱い視線を送るのは、東京オリンピック開催を6年後に控えた私たち日本人かもしれません。

(鈴木所長補佐 東京都江東区派遣)

<Singapore Sports Hub 概要>

- 運営主体：Singapore Sports Hub Consortium (SSHC)
※官民パートナーシップ (PPP) 方式
複数の企業によるコンソーシアムが設計、建築、資金、経営面においてシンガポールスポーツ協議会と25年間の契約を結んでいる。
- 施設：新国立競技場、屋内競技場、体育館、屋内プール、図書館、博物館、ショッピングモール (レストラン)
- 開業：2014年6月末
※2015年に正式オープン (全施設完成予定)

